

ケナフの栽培法

(はじめて少し栽培される方のために) (150512 改訂版・鮫島一彦作成)

管理可能な畑や花壇などに種まきしてホワイトトハイビスカスとも呼ばれるケナフの花とそのたくましい成長の様子を楽しんでください。

ケナフは栽培地の土質を選ばず、世界の広範囲の地域で容易に栽培でき、無農薬栽培が可能な植物とされていますが、生き物ですからそれなりの栄養と日光は必要です。成長に応じて二酸化炭素を吸収するので、大量に栽培して利用できれば地球温暖化防止にも寄与できるのではないかと期待されている植物です。

西アフリカ原産とされ、世界の各地で栽培利用されてきました。品種はいろいろあります。

用途は多様で、木材同様、衣食住の多くの場面でいろいろな技術を応用して利用することができます。特に、最近では、紙製品、自動車の内装やエンジンの部品、住宅のボードなどとしても利用され注目されています。



高知の青空に映えるケナフの花(101011)

ケナフの栽培方法 (はじめて少し栽培される方のために)

1. 種まき時期 … 日本では4月下旬～5月中旬頃までが適期です。それ以降でも栽培できますが、最終の草丈が低くなり、開花も遅れます。
2. 種まき要領 … 密植すると枝の少ないすらっとした茎がえられます。
まず、栽培場所を選定してください。条件が良ければ草丈が2～3m程度の高さになる大きな植物です。直径約30cm程度の穴を掘り、石や遺物を除いて細かくした土を埋戻し、少し周囲より高い平らな畝となるようにします。埋め戻す時に市販の野菜・花の土や肥料を追加した畝と、周囲の土のみを追加した畝の2つを作ると肥料の効果を知ることができます。
十分な水をかけてしみ込ませてからケナフの種子1グラム(約30粒)を直径約30cmの畝にできるだけ均等にばらまきし、そのうえに細かくした土を高さ1～2cmの厚さに薄くかけ水をやります。
発芽までは毎日水をやります。条件が良ければ2、3日で発芽します。
3. 苗期の管理 … 芽が出てから2～3週間までは生育の状況を見ながら適当に水をやって除草してください。その後はほとんど手をかけなくても育ちます。

タネまき	除草	開花	収穫					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

特に間引きや殺菌は必要としません。条件がよければ、元気な苗のみが何本か大きく成長します。